

男女がともに活躍の場は無限大 輝く男女の熱い想い

男女共同参画社会

男女が対等な社会の一員として、社会のあらゆる活動に参画する機会が確保され、一人ひとりが個性と能力を発揮できる社会のことです。
性差における偏見の解消や固定観念の打破など、男女双方の意識改革と理解が必要です。

アンコンシヤス・バイアス

「力仕事」、「消防団」、「子育て」、「保護者(PTA)」と聞いて思い浮かべるのは、男性の姿ですか？女性の姿ですか？

問い合わせ 協働人権係

おそらく、多くの人が「力仕事」「消防団」では男性、「子育て」「保護者(PTA)」では女性を思い浮かべるのではないのでしょうか。
人は過去の経験や知識、価値観をもとに、物事に対して自分なりのイメージを持っています。

このような無意識の偏見や思い込みのことを「アンコンシヤス・バイアス」といいます。

輝く男女の活躍

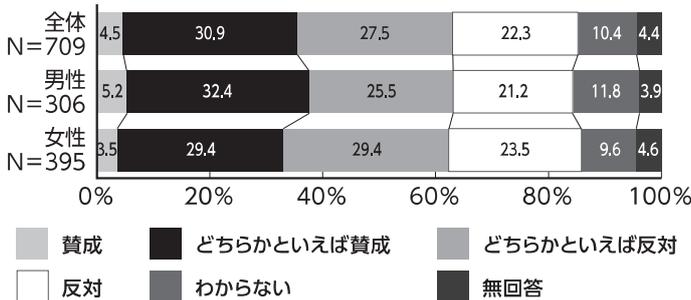
男女共同参画の取り組みの進展が不十分な要因の一つとして、社会全体に「アンコン



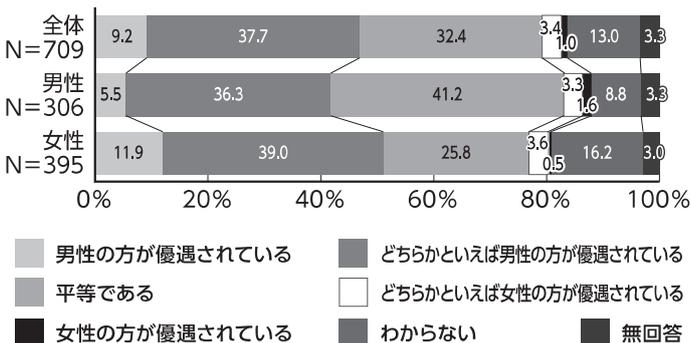
※遠賀町の取り組み内容は、「第3次遠賀町男女共同参画社会推進計画」をご覧ください。

シヤス・バイアスによる「固定的性別役割分担意識」があるためだと言われています。
今回は、そんな社会のイメージにとらわれることなく、遠賀町内で活躍している「女性消防団員」と「おやじの会会長」に、それぞれの立場から熱い想いを語っていただきました。

男女共同参画に関するアンケート調査結果



「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」
「賛成」と「どちらかといえば賛成」の割合が全体のおよそ35%を占めています。



「地域活動や社会活動の場における男女の平等感」
「男性の方が優遇されている」と「どちらかといえば男性の方が優遇されている」の割合が全体のおよそ47%を占めています。

資料：男女共同参画社会づくりに向けた町民意識調査(令和元年度)

インタビュー 「女性消防団員の活躍」



遠賀町消防団 第1分団
藤本 晴香さん

木守区在住。昨年10月消防団に入団し、第一分団所属。介護などの仕事の傍ら看護師を目指し専門学校に通う学生。5歳と3歳の子どものママ。



ポンプ操法訓練の様子



消防団

地域における消防・防災のリーダーとして、その地域に密着し、住民の生命と財産を守るという重要な役割を担う消防組織。遠賀町では現在69名の団員(うち2名が女性)が活躍中。
第3次遠賀町男女共同参画社会推進計画では、令和6年度までに女性消防団員を3名にすることを目標に掲げている。

入団のきっかけは？

友人のお父さんが消防団員(以下、団員)だったこともあり、小さいころから私にとって消防団は身近な存在でした。そんなとき、知り合いの団員から誘いを受け入団を決めました。

入団してみた印象は？

はじめは、男性が多いのでなじめないだろうとか、一度入団したらなかなか辞められないだろうとか不安がありました。でも入団後は、女性と

どんな活動をしていますか？

毎月1回の消防車両点検のほか、防火水槽の見回り、災害時に備えてのポンプ操法・集団訓練などを行っています。嘉麻市で行われた基礎教育研修の参加者約100名のう

してではなく一団員として認めてくれていると感じました。以前から、人を助ける活動をしたいと思っていましたし、消防団での活動は、看護の仕事につながるなと感じていました。消防服を着た姿は、子ども達からも好評なんです。

ち、女性はわずか4名でしたが、女性だからといってできないことは一つもありませんでしたよ。
また、ポンプ操法の訓練では、いざというときすぐ動けるようにしなければ、現場に迷惑をかけるという責任を感じました。まだ、大会には参加したことはありませんが、女性の大会が開催されるなど、女性が活躍する場が増えていくと聞いています。

仕事と家庭の両立は？

周りの団員が配慮してくれますし、活動頻度も定期的なものには月に1回、多くて3回程度なので両立ができています。私の場合、実家が遠賀町にありますし、困ったときは家族の助けが得られる環境にもあります。もちろん活動に

ご自身に変化はありましたか？

参加できないときもありませんが、気軽に相談できるため、無理せず頑張れています。

やはり、災害への危機意識を持つことができたということでしょうか。遠賀町は過去に洪水災害の経験もありますし、活動を通して知識を得ることで、自分が助ける側になっていると意識が変わりました。

また、消防団に入団したことで、コミュニティが大きくなり広がりました。今後は、タンク車を運転できるよう大型免許の取得にチャレンジしたいと思っています。

入団を考えている女性たちにメッセージはありますか？

今、女性消防団員の数は少ないですが、女性だからできないという活動はありません。むしろ、女性ならではの視点や育児等これまでの経験を活動に活かせる強みがあると思います。この記事を読んで私もやってみたい、やれそうと思ってくださる方がいればうれしいかな。

インタビュー 「おやじ達の挑戦」



島門小おやじの会
矢野 智雄さん

今古賀区在住。平成28年に島門小おやじの会に入会し、平成29年から同会の会長に就任。2人の小学生のパパ。



おやじの会

子育てや教育に参画する父親を中心とするグループ。おやじ達のつながりや、持っている様々な技術力を、青少年の健全な育成のために活用することを目的として平成24年に設立。

現在、会員数は21名、女性会員(3名)も入会中で会員の平均年齢は45・2歳。

入会のきっかけは？

長女と同じ保育園に通うお子さんのお父さんの一人が、以前から気になっていたおやじの会の会員で、その方に誘われたからです。

どんな活動をしていますか？

子ども達の見守り活動を中心に、小学校のあいさつ運動への参加や、学校行事のお手伝い、学校遊具などの簡単な

修理、青パトによる防犯パトロールなどの活動をしています。

子ども達のためと云いつつ、自分達が楽しむことを一番に考え、あまり背伸びをせず「身の丈に合った活動」を心がけています。

また、会員はみな何かしらの仕事をしており、活動に参加できないこともあります。だからと言って引け目に感じることなくのびのびと活動できるように心がけています。

よかったこと、苦勞したことは？

会の活動を通して、たくさんの子どもの笑顔を見ることができ、さまざまな人と出会い、貴重な経験ができました。楽しみながら活動しているので、特に苦勞を感じたことはありません。まあ、強いて言うのであれば、会のメンバーがみんなワガママなので、その調整に苦勞することでしょうか…(笑)

今後の展開は？

これからも、楽しむことを目的として活動していきたいです。どんな活動をするにしても、楽しんでやらないと長続きはしませんし、自分達が楽しんで活動していれば、それを見た他のおやじ達も興味を持ってくれる、活動に共感してくれる、一緒に活動してくれると思っています。最後に、おやじの会はいつでも入会者を募集しています。



子ども達の笑顔のために、学校遊具修理中



「おやじ達」の見守りで登校も安心

メッセージ

「熱い想いとともに 私たちが目指すもの」

今回の特集では、「まちづくり×男女共同参画」をテーマに地域で活躍している魅力的な男女に想いを語ってもらいました。

二人に共通しているのは、「自ら」、「楽しみながら」、「積極的に活動していること。女性にとっても、男性にとっても暮らしやすいまちとは、男

女がともに「無理をすることなく、楽しみながら、継続して積極的に「活躍できるまちだ」と思いませんか。

今よりもっと男女がともに活躍し、イメージを無限に広げ、誰もが心豊かに暮らせるまちを目指して、遠賀町はさまざまな取り組みをしています。

新たな企画が始動！

～男性にとっての男女共同参画～

遠賀町では、これまで子育てにフォーカスした体験型父子講座を企画してきましたが、今年度は少し視点を変え、男性に介護の基本を学んでもらおうと「男性向け介護講座」を企画しました。

今や介護者の3人に1人は男性と言われています。超高齢化社会の現在、男女がともに介護を支えることが必要です。

介護講座は、すでに募集を終了していますが、男性の家事・育児への意識向上を目指し、これからも新しい講座をぞろぞろ企画していきますのでお楽しみに！



避難所

垣谷 美雨／著(新潮社)

東日本大震災で、妻たちに突きつけられた現実に迫る長篇小説。

歪な社会の縮図と化した避難所で、絆を押しつけられ、残された者と環境に虐げられる3人の妻。被災地で露わになった家族の問題と真の再生を描く問題作。



肉体のジェンダーを笑うな

山崎 ナオコーラ／著(集英社)

もし夫の胸から「母乳」ならぬ「父乳」が出たら？旧来的な性別役割をユーモラスにひっくり返す小説集。



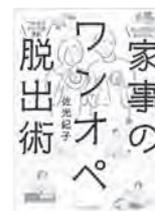
お越しになれなかった人のために、展示した図書館の書籍をピックアップ！ぜひ読んでみてください。



被災ママに学ぶ ちいさな防災のアイデア40

アベ ナオミ／著(学研プラス)

防災&避難生活の心得集。体験者ならではのリアルなアドバイスを、コミックを交えてわかりやすく紹介。



家事のワンオペ脱出術

佐光 紀子／著(エクスナレッジ)

もめずに分担、やり方に納得。遠慮&ケンカせず、前進するヒントを「つかえるセルフ」とともに紹介。

多発する災害に備え、防災について考えるきっかけになればと、6月の男女共同参画週間に図書館で企画展を開催しました。そのほかにも遠賀町が行っている取り組みや関連書籍の展示を行いました。



男女共同参画推進団体「どし」の加藤暢子さん(写真右)と協働で企画

「災害に備えよう 男女共同参画の視点から」

「災害に備える企画展を開催しました！」